

東京都立若葉総合高等学校 平成30年度 教科:「保健体育科」科目:「保健」 年間授業計画

教科:保健体育科 科目:保健 単位数:1単位

対象学年組:(第1学年A組~F組)

教科担当者:(五十嵐 寛:A, F)(今村 裕子:B)(吉岡 秀樹:C, D)(青木 泉:E)

使用教科書:(現代高等学校保健体育改訂版)

使用教材:()

	指導内容	科目「保健」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定 時数
4月	①オリエンテーション 1 現代社会と健康 ・私たちの健康のすがた	・わが国における健康水準の変化、わが国における健康問題の変化について理解し、説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	2
5月	・健康のとらえ方 ・健康と意思決定・行動選択	・健康についての多様な考え方、健康の成り立ちとその要因について理解し、説明することができる。 ・意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因、健康的な意思決定・行動選択を実現する工夫について理解し、説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	3
6月	・健康に関する環境づくり ・生活習慣病とその予防	・健康づくりを支える環境、ヘルスプロモーションに考え方もとづく環境づくりについて理解し、説明することができる。 ・生活習慣病についてその呼称の由来や病歴を説明することができ、また、生活習慣病の予防について理解し、説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	5
7月	・食事と健康	・健康的な食生活の重要性と意義、健康的な食生活習慣の形成について理解し、説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 定期考査 などを総合的に評価する。	1
9月	・運動と健康の心身の相関とストレス ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康	・健康から見た運動意義、健康づくりのための運動習慣の形成について理解し、説明することができる。 ・健康からみた休養・睡眠の意義、健康から見たよりよい休養・睡眠のとり方について理解し説明することができる。 ・喫煙の健康影響、喫煙開始の要因と依存性、日本と世界のたばこ対策について理解し、説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	2
10月	・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・現代の感染症	・飲酒による健康への短期的および長期的影響、飲酒の開始要因と社会問題、飲酒による健康被害を防ぐ様々な対策について理解し、説明することができる。 ・薬物乱用や薬物依存による健康への影響、薬物乱用の開始要因と社会問題、薬物乱用による健康被害を防ぐための様々な対策について理解し、説明することができる。 ・感染症は、時代や地域によって、社会環境や自然環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを説明できる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	3
11月	・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・欲求と適応機制 ・心身の相関とストレス	・感染症予防の原則を理解し、感染症予防のための社会的取り組みと、個人が行う対策について説明できる。 ・性感染症・エイズについて理解するとともに、予防するための個人・社会がおこなう対策について説明できる。 ・精神機能が脳で統一的、調和的に営まれていること、また人間にはさまざまな欲求があること、欲求不満に対処するための適応機制について説明することができる。 ・心身相関のしくみとストレスの原因、ストレスの影響と心の健康について理解・説明ができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	4
12月	・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現	・ストレスへのさまざまな対処方法について理解し説明できる。 ・自己実現と心の健康との関係、自己実現の道筋と達成について理解し説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 定期考査 などを総合的に評価する。	2
1月	・交通安全現状と要因 ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり	・交通事故の現状とその要因について理解し説明することができる。 ・安全な運転のための資質、交通事故を起こした場合の責任と補償について理解し、説明することができる。 ・安全な交通社会づくりのための法的な整備と。設備の充実、車の安全性について理解し説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	2
2月	・防災・防犯をめざした社会づくり ・応急手当の意義とその基本 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	・防災・防犯を目指した社会づくりのための法律や条例、情報伝達の組織的な活動の実施について理解し説明することができる。 ・応急手当の意義やその手順について理解し説明することができる。 ・心肺蘇生法の原理と意義、その各手順について理解し説明することができる。 ・日常的なけがの応急手当、熱中症の応急手当について理解し説明することができる。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 などを総合的に評価する。	3
3月	・心肺蘇生法を実習しよう	・ダミーを使って心肺蘇生法を実際に行い、技能を身に付ける。	出席状況 授業への参加の様子 課題プリント 実習レポート 発表学習 学年末考査 などを総合的に評価する。	2